

生徒総会で提案『体育の際の帽子着用の是非』

6月、生徒総会を開催しました。今回は全校生徒の参加に伴い、密を避けるためICT(情報通信技術)機器を活用して各教室をつなぎました。総会ではさまざまな意見を共有し合い、円滑に話し合いを進めていくことができました。特に1年生が提案した『体育の際の帽子着用の是非』という内容に対して、学年を問わず生徒一人一人が真剣に向き合っていることができました。

総会を通して、自分たちの学校を

より良くするためにどうすれば良いかを一人一人が考えられたと思います。今後も我が校では、そういった一人一人の想いを大切に、より良い学校を目指していきます。

【邑楽南中学校生徒会長 新井隆勢】

生徒総会で有意義な意見交換ができたことは、大変素晴らしいと思います。町では中学生による一日子ども議会を開催しています。学校や町の生活環境を良い方向に改善するため、真剣に考え、意見する中学生。こうした民主制議会の経験をこれからの生活に生かしてもらいたいと思います。



ICT機器を活用。画面を通して対話を重ねた



教育長's eye
町教育委員会 藤江利久 教育長

「いもけんぴー」すみっこけんご。僕はいろいろなあだ名で呼ばれてきた。他にも「けんごマン」「けんぴー」。「賞味期限と消費期限が切れた芋けんぴー」と呼ばれたとき、僕は「えっ、それ何？」と思った。そして僕は、相手は何でそんなことを言ったのかを考えてみた。呪文？それとも本の名前？どうしてそのあだ名を言ったのかな？どんな気持ちで言ったのかな？僕はすごくいろいろなことを考えていた。なぜか涙があふれてきた。

何で泣いてしまったのか、何で涙が出たのかを考えてみた。そう言われたのが嫌だったからかな？それともそう言った方が呼びやすかったのか？僕は友達に嫌われていたり、もしかしていじめられていたりしているのかもしれない。そんなことを考えていたら悲しくて、一人の小さな一言が人を傷つけているのかもしれない。面白半分で言ったことが人を傷つけているのかもしれない。そんなことに気が付くことができた。

僕はこれから人の心を考えて接したり、話したりしなければいけないと思います。また、相手の表情を見て接して、悲しい気持ちやつらい気持ちなどを感じたら、話を聞いて少しでも心に寄り添い、みんなと同じ心を持てたらうれしいです。そうすればいいと思います。



長柄小学校6年 坂口 絢胡



君の一言で人が傷つく

陶の会



活動日 第2・4木曜日
時間 午前9時～午後5時
場所 高島公民館
問合せ 高島公民館 ☎89-1501

陶の会では電動ろくろを使わない「手びねり」の技法で作陶しています。土を指先で伸ばしながら形を作っていく技法で、土で作った紐を積んだり土の塊に穴を空けたりしながら、成形(土を形にする)します。形に制限がなく、イメージを形にしやすことが「手びねり」の魅力です。とは言え、いつもイメージ通りに出来上がる訳ではなく、「出来た!」「出来ない!」の繰り返し。でも、それが作陶を続ける意欲になっています。活動日の午前9時から午後5時の間、メンバーは好きな時間に来て作陶をしています。時間中の楽しいブレイクタイムには、「あーしよう、こーしよう」と作陶の相談話から世間話まで。時間が過ぎるのを忘れてしまうほど楽しいサークル活動。これからものんびり続けます。

JOY

あなたの心と身体をリフレッシュ 生涯学習のページ

学校教育課 ☎47-5040(直通) school-ed@swan.town.ora.gunma.jp	中央公民館 ☎88-1177	町立図書館 ☎88-5900
生涯学習課 ☎47-5043(直通) further-ed@swan.town.ora.gunma.jp	長柄公民館 ☎89-0123	高島公民館 ☎89-1501
	町民体育館 ☎88-5355	

邑楽町教育委員会

町の生涯学習を身近に 職員一人一人が広報媒体になる

広報おうら JOY 電子版

1. 受け手は必要な情報、欲しい情報を選んで受け取れる時代

近年のデジタル化の発展は目覚ましく、情報発信の方法は多様です。町では、広報紙、インターネットを使った情報発信(ホームページやツイッター)の他、座談会など

の方法で情報発信を行っています。町民の皆さん(受け取る側)はこれらの方法から「必要な情報、欲しい情報を選んで受け取る」ことができます。町(発信する側)は、これらの方法を効果的に連動させていくことが重要です。

2. JOY電子版スタート

そこで、広報おうらJOYでは町の生涯学習について町民の皆さんに身近に感じてもらえるようにと、生涯学習課職員がオリジナル動画の作成・配信を始めました。



撮影は職員が試行錯誤でトライ!

3. 職員の個性が広報媒体に

広報おうらJOY電子版は、中央公民館のYouTubeチャンネルで公開しています。内容は、広報おうらJOYのページに掲載されているもので、主に教室・講座の案内です。生涯学習課職員が試行錯誤しながら、それぞれの個性を発揮して(?)います。

広報紙とはひと味もふた味も違った広報おうらJOYの情報を皆さんの元へお届けします。



撮影した動画の編集も職員がトライ!

邑楽町中央公民館 YouTube チャンネル

邑楽町中央公民館 ユーチューブ 検索

他にも、いろいろな方法で発信中

町ホームページ 町公式Twitter

町立図書館 LIBRARY INFORMATION 9月 September 情報板

問合先 町立図書館

休館日

▶期日 9月6日㊤、13日㊤、20日㊤、27日㊤、30日㊤
※30日㊤は月末整理日。

キッズわくわくスタンプラリー

※月ごとのテーマの本を借りて、スタンプをもらおう。詳しくは図書館まで。

オリーブ「読み聞かせ」

▶期日 9月2日㊤、9日㊤、16日㊤
▶時間 午前11時

はくちょう号

▶期日 9月9日㊤

到着時間	場所
10:30	特別養護老人ホーム やまつつじ
11:05	介護老人保健施設 ラポール・レイゾン
11:40	グループホームヴィラ
13:40	邑楽町社会福祉協議会 デイサービスセンター
14:20	グループホーム つむぎの里
15:10	住宅型有料老人ホーム おうらの里
15:30	ショートステイくるみ

うちとしょ 所蔵資料の貸し出し郵送サービス

通常開館に戻るまで、所蔵資料を無料で郵送して貸し出すサービスを行っています。おうち時間のおともに、図書館の本を利用してみたいかですか。

▶貸出冊数 1回につき一人5冊まで
▶貸出期間 15日間



NEW 新刊



町立図書館には毎週約100冊の本が新しく仲間入ります。貸出中の場合には、予約サービスも利用できます。

声の在りか

寺地はるな／著 KADOKAWA

夫と小学4年生の息子との関係に悩む主人公が、民間学童で働く中で周囲から求められるものでも、誰かからの受け売りでもない、自分自身の言葉を取り戻すために奮闘する大人の成長小説。



もう一杯、飲む?

角田光代、他／著 新潮社

酒は記憶を呼び覚ます装置になる。9人の作家が小説・エッセイに紡いだ「お酒のある風景」に酔いしれる。



野ねずみきょうだいの草花あそび 初夏から秋まで

相澤悦子／作 福音館書店

身近な植物で楽しむ新しい草花あそびを野ねずみが紹介。初夏から秋までの3つのお話と約20種類の詳しい作り方を掲載。



図書館映画会

日時	上映作品
9/3㊤ 14:00	菜の花配達便 (101分) 私設郵便局を舞台としたハートウォーミング・コメディ
9/17㊤ 14:00	ビーン (日本語字幕 89分) ビーンの破天荒な行動が騒動を巻き起こす。一体どんな展開が?

▶会場 町立図書館 2階視聴覚室 ▶定員 20人 ▶入場料 無料
▶その他 入退場は自由です。直接会場へお越しください



雑誌・古本市

▶期日 9月18日㊤、10月2日㊤
▶時間 ①午前9時30分～9時50分
②午前10時～10時20分
③午前10時30分～10時50分

▶内容 雑誌や古本の販売
※雑誌1冊20円、古本1冊50円。
※1人それぞれ10冊まで。
※常設の古本市は行いません。
▶定員 各回13人(先着順、1人1回まで)
※新型コロナウイルス感染症対策のため入場制限あり。
▶申込方法 社会教育施設主催の教室・講座と同じ(本紙19ページ参照)
▶申込開始 9月4日㊤午前9時30分
▶申込・問合先 町立図書館

期日によって、販売雑誌が異なります
詳細は町立図書館ホームページで



邑楽町立図書館 検索



掘り出し物が発見できるかも…

未来に向けて 文化財

— 長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な財産 —

新しい収蔵資料を紹介 其の1

今回紹介する収蔵資料は『石器』。令和2年11月に、町文化財保護調査委員の川島正一さんから町へ寄贈いただいたものです。

赤土の中から発見される

石器は町内の鞍掛遺跡、高原遺跡、大黒遺跡から発見採集されたもので、邑楽町誌に掲載されている旧石器時代資料です。

中でも鞍掛山切通崖面の赤土から発見された鞍掛遺跡の石器(右写真)は、出土した層が分かる貴重な石器です。約1～4万年前の火山灰層、通称「関東ローム層」の中に見られる黒褐色の化石土壌。その化石土壌の14cm上の位置から採集されました。



鞍掛山の地層が見える貴重な写真(昭和40年頃) その場所は子どもたちの遊び場にもなっていた



≪実物大≫
石質…頁岩
長さ…121mm
幅…25mm

この石器は、母岩から縦長に剥離されたカケラで、両側の縁や中央の稜が縦に長く平行しています。また、たたき割るときに打ち下ろす面をあらかじめ細かく整えておく調整打面という特徴が見られます。これらの特徴をもつ縦長剥片の石器は「石刃」と呼ばれ、この形を連続的に剥離する技術を石刃技法と呼んでいます。この石器には剥離後の二次的加工が見られませんが、縦長の形を作り出すことを十分に意識した石刃技法で作られた石器です。

石器だけが残された

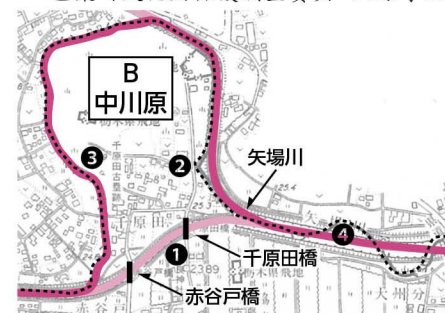
川島さんが発見した鞍掛遺跡は、開発により失われてしまいました。これら失われた遺跡から出土した石器は、この地域の旧石器時代の研究にとって非常に貴重な資料となっています。

※石器は中央公民館に展示中。

No.136 大好き 文化財

矢場川の流が形成した不思議な「巾着地形」 その3 B 中川原(千原田向地・9区)

邑楽町文化財保護調査委員 大塚孝士



中川原の美しく典型的な巾着地形

蛇行する川に囲まれた地形の巾着袋内は千原田集落で「中川原」の地名が付いています。平成の河川改修で集落は南北に分断されますが、同時進行の橋梁架設により西に赤谷戸橋、東に千原田橋によって免れました。巾着袋の底部分を北北西に、口部分を南南東に向けた最大幅470m・深さ700mほどの大きさで、典型的な最も美しい巾着地形をしています。巾着袋内はその地名のとおり、良質の砂礫が埋蔵されており、大河が自由奔放に流れた証拠となります。高度経済成長期にはその需要をまか

なう建材として採掘されました。巾着袋の口には中野村の鬼門の守りで『長良神社(①)』を祭りました。また袋をひもで結ぶ位置の東には、両野33観音の一つ『第3番札所千原田の馬頭観音(②)』があります。これは河川改修により赤谷戸から移設されました。また、天然の要害巾着地形を巧みに利用した中世の城館跡「千原田古壘(③)」があります。西側で北に流れる急崖をもって幾筋かの壕で囲み、その一部は現在でも確認できます。『千原田車跡(小島水車)(④)』は戦前まで回っていました。

